

港空利用者 29年度

国際線

国内線

過去最多の10万人超 11年ぶり300万人超える

宮崎ブーゲンビリア空港の平成29年度利用者は318万1177人に上り、国際線は初の10万人を突破、国内線も11年ぶりに300万人を超えた。このほど、県庁であった宮崎空港振興協議会（会長・河野知事）で報告された。

県総合交通課によると、29年度はLCC（格安航空会社）の宮崎一成田線や宮崎—ソウル線の新規就航、台北線の増

便などで前年度の306万1362人から11万8755人（3・9%）増えた。このうち、国内線は10万1056人（3・4%）増の306万9192人。大阪（伊丹）線が8・1%増の57万7652人、沖縄線が4・7%増の8万6933人、名古屋線が4・0%増の16万5855人などと伸び、東京（羽田）線も154万8235人で1・2%

増えた。昨年12月にLCC就航の同（成田）線は3万1222人が利用した。国際線は1万7699人（19・0%）増の11万925人。ソウル線は

同協議会は今年度、国内線での利用率が高い路線の増便要望、新規路線開設や地方間の季節運航便誘致などに注力。国際線は訪日需要の旺盛な中国本土や東南アジアからのチャーター便誘致に向けた活動に努め、若年層の利用促進に向け高校生を対象にした海外修学旅行のプレゼンテーション大会なども計画している。

た。韓国学生団体の長期合宿などが要因。スポーツランド推進室によると、プロ野球は国内7、韓国1球団がキャンプ。Jリーグは17チームで前年比3減だったが、全体では団体461（前年比7増）、参加人数1万3196人（同153人増）、延べ参加人数10万4130人（同3283人増）だった。

この結果、経済効果は3億3600万円増で過去3番目の129億9700万円を記録。一方、PR効果（テレビや新聞などの全国枠をCM広告料金換算）は、平昌冬季五輪の影響でメディア露出が減り、30億9100万円減の57億円だった。年度別（昨年4月〜今年3月）では団体数1259（前年比51減）、参加人数3万1897人（同1225人減）、延べ参加人数19万6835人（同1万4600人増）。参加人数は過去3番、延べ参加人数は過去2番目で、熊本地震が影響した前年度から盛り返した。

今年の春季宮崎キャンプ

延べ参加人数、過去最多

河野知事は5月28日の定例会見で、今年の春季「延べ参加人数が過去最多、参加人数も過去2番目に多かった」と発表し

観客数も5万9047人増の76万2835人を記録。福岡ソフトバンクホークス歓迎パレードや、ジャイアンツ—ホークスOB戦、東京ヤクルトスワローズのオープン戦などが押し上げた。